

作文・レポート教材における重複と省略に関する記述の分析

内藤真理子

要旨

本稿の目的は、市販されている作文・レポートの教材において、重複・省略がどのように記述されているのかを明らかにすることである。本稿では、まず、1) 作文・レポートに関する教材を収集し、2) 初級・中級・上級・超級に分け、3) 重複・省略に関する記述内容によって、「重複・省略に関する記述なし (A)」「重複・省略に関する記述はあるが、文章を作成・推敲する際の指標とするには不十分 (B)」「重複・省略に関する記述があって、文章を作成・推敲する際の指標となる (C)」の3つに分類し、4) (B) と (C) についてはその記述内容の分析と考察を行った。その結果、重複・省略に関する記述のある教材は22冊中5冊で、また、記述がある教材においても、どのような条件において・どのように省略するかについて具体的に述べていないものや、対象とする学生のレベルに適合させるために加筆を要すると考えられるものがあることがわかった。

キーワード

重複、省略、教材、作文・レポート、レベル

1. 調査の背景

日本語学習者が書く作文の中に、日本語能力のレベルを問わず、省略したほうがこなれた日本語の文章となる重複が散見される。例えば、初級レベルでは、「花子さんのかぞくは六人です。花子さんは弟さんが二人とお兄さんが一人います。花子さんのお父さんのしょくぎょうはエンジニアです。」(学習者の作文をもとに筆者が一部改変したもので、下線が省略したほうがいい重複部分)、上級レベルでは、「LCC の値段は一般航空会社に比べ、最大 50% の値段の差があるという。」「本レポートの意義は、死刑制度を改善させようという今の状況の中、死刑制度はどのように改善しようと力を尽くしても問題点を完全に解決できないことを考えたという点にある。」といった文である。このような重複は、誤用にはならないものの、冗長で稚拙な印象を読み手に与えるだけでなく、理解しにくくさせてしまうおそれもある。しかし、大塚(1995)が指摘しているように、省略をただやみくもにすればいいというものではなく、適切な箇所で明示を行い、意味の混乱や誤解が生じないようにすることも合わせて考える必要がある⁽¹⁾。

冒頭で示した例のように、重複は初級だけではなく上級の学習者の作文・レポートにも現れるため、すべてのレベルにおいて重複と省略の指導をするべきであろう。しかし、筆者のこれまでの指導を振り返ると、「この部分は削除する」などのコメントをつける程度に留まっており、学習者が重複を回避できるような方策を体系的に指導してきたとはいえない。この責任は筆者に帰すものであるが、指導の拠り所とする教材であまり取り上げられていないことも一因となっているのではないかと考えた。

そこで、1) 市販されている作文・レポート教材において重複と省略が扱われているの

か、2) 扱われている場合どのような記述がなされているのかについて調査を行うことにした。本稿はこの調査について詳しく述べるものである。

なお、本稿では、省略しても意味の理解を損なわず、繰り返すことでかえって稚拙な文章だという印象を与える、あるいはわかりにくい文章になるなどの問題が考えられる語句の繰り返しを「重複」と定義する。また、まったく同じ形式で現れる同一語句のほか、同義・類義語句の繰り返しも重複とする⁽²⁾。

2. 調査の概要

2.1 分析対象

ここでは、本稿で分析対象とした教材について述べる。教材の収集は、まず、『日本語教材リスト No. 44』（日本語教材リスト編集委員会 2015）の「留学生向け専門分野」「作文」のいずれか、もしくは、凡人社のウェブサイト上で「留学生向け専門分野」「作文」のいずれかに掲載されているものを対象とした。次に、上記の中から、1) 入手可能で、2) 扱っている主な文章の種類が作文・レポート・論文であり、3) 特定の言語を母語とする学習者を対象としておらず、4) 教材名やまえがきなどで教材の対象者として留学生が含まれることを明らかにしている教材に絞った。なお、新版と旧版の両方が記載されている場合は新版のみを対象とした。最終的に、調査対象は 22 冊となった。

2.2 分析対象教材のレベル判定

ここでは、収集した教材のレベル判定について述べる。教材は、対象者の言語レベルによって初級・中級・上級・超級の 4 つとした。教材名やまえがきにレベルが明記されているものは、それに従った。「初級前半から中級前半にかけて」や「中・上級」のように、2 つのレベルにまたがる記述となっている場合は、低いほうのレベルを採用した。これは、「どのレベルまでに」よりも「どのレベルから」、重複・省略が教材でどのように取り上げられているのかを調査したいと考えたからである。レベルが明記されていない場合は、内容で判断した。なお、上級と超級のレベル分け基準については、前者を大学・大学院入学を目指している、もしくは大学や大学院に在籍している日本語学習者を対象としているもの、後者を日本語学習者だけではなく「日本人」も対象としているものとした。分析対象とした教材とそのレベルを表 1 に示す。

2.3 重複・省略に関する記述による分類

次に、収集した教材における重複・省略に関する記述の有無を調べた。さらに、記述がある場合には、その記述内容が文章を作成・推敲する際の指標となるか否かで分類し、以下のように A・B・C のラベルを付した。

A：重複・省略に関する記述なし

B：重複・省略に関する記述はあるが、文章を作成・推敲する際の指標とするには不十分

C：重複・省略に関する記述があつて、文章を作成・推敲する際の指標となる

表 1 レベル・分類・教材名

	レベル	教材名
1	初級	絵入り日本語作文入門：文型による短文作成からトピック別表現練習へ
2	初級	初級日本語 作文練習帳
3	初級	日本語 読み書きのたね
4	初級	みんなの日本語初級 第2版やさしい作文
5	中級	大学で学ぶための日本語ライティング
6	中級	中級日本語学習者対象 小論文への12のステップ
7	中級	日本語作文Ⅰ：身近なトピックによる表現練習
8	中級	日本語作文Ⅱ：中級後期から上級までの作文と論文作法
9	中級	日本語の書きかたハンドブック
10	中級	日本語の作文技術 中・上級古今書院
11	中級	表現テーマ別 にほんご作文の方法（改訂版）
12	中級	留学生のためのここが大切 文章表現のルール
13	上級	上級日本語学習者対象 アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ演習
14	上級	改訂版 大学・大学院留学生の日本語②作文編
15	上級	改訂版 大学・大学院 留学生の日本語④論文作成編
16	上級	日本語の作文力練習帳 上級：大学・大学院で学ぶために
17	上級	日本語の表現技術：読解と作文 上級
18	上級	改訂版 留学生のための論理的な文章の書き方
19	超級	大学生と留学生のための論文ワークブック
20	超級	日本語の論文力練習帳
21	超級	留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック
22	超級	Good Writing へのパスポート：読み手と構成を意識した日本語ライティング

3. 分析と考察

調査の結果、重複・省略に関する記述があったのは（CとB）、初級では1冊、中級では3冊、上級はなく、超級は1冊であった（表2）。本章では、これらの記述内容を初級・中級・上級・超級の順に分析し、考察する。

3.1 初級

分析対象となった初級の教材は4冊あり、そのうちの3冊には重複・省略に関する記述がなく（A）、重複・省略に関する記述があって、文章を作成・推敲する際の指標となる（C）と判定したものは1冊であった。

（C）と判定した教材4においては、主語もしくは主語の中の主題の省略について説明がなされていた。初級レベルの学習者であるため、説明しやすく、かつ比較的理解しやす

表 2 レベル・分類別教材数

レベル	分類	教材	合計
初級	A	3	4
	C	1	
中級	A	5	8
	B	2	
	C	1	
上級	A	6	6
超級	A	3	4
	C	1	

い主語の省略を取り上げる程度にとどめることは理に合っていると考える。

教材 4

●ユニット 1 作文のポイント

例 1 わたしはジョンです。わたしは会社員です。

→わたしはジョンです。会社員です。

例 2 わたしはジョンです。わたしは学生です。わたしの大学はアメリカ大学です。

→わたしはジョンです。学生です。大学はアメリカ大学です。

●ユニット 4 作文のポイント

例 1 ①父は 52 歳です。+②父はうちの近くの会社で働いています。

→父は 52 歳で、~~父は~~うちの近くの会社で働いています。

→父は 52 歳で、うちの近くの会社で働いています。

例 2 ①父はうちの近くの会社で働いています。+②父は毎朝 8 時に会社へ行きます。

→父はうちの近くの会社で働いていて、~~父は~~毎朝 8 時に会社へ行きます。

→父はうちの近くの会社で働いていて、毎朝 8 時に会社へ行きます。

(『みんなの日本語初級 第 2 版やさしい作文』(pp. 4, 22))

3.2 中級

分析対象の中級の教材 8 冊のうち、重複・省略に関する記述がない (A) が 5 冊、重複・省略に関する記述はあるが、文章を作成・推敲する際の指標とするには不十分 (B) が 2 冊、重複・省略に関する記述があつて、文章を作成・推敲する際の指標となる (C) が 1 冊と判定した。

まず、(B) と判定した教材 10 について述べる。本教材で重複・省略について言及があつた章は、「学生が書いた作文」「それに添削を加えて『よりわかりやすくした作文』」「特に大切な点や留学生に共通した注意点」の 3 つから構成されていた。重複・省略に関する記述は、「特に大切な点や留学生に共通した注意点」にあつた。本教材では、作文全体が提示されているため、文脈の中で重複と省略を理解させることができるという利点がある。しかし、引用で示したように、付されたコメントは個別の箇所についての注意であ

教材 10

6.1

・学生の作文

(前略) 1983 年にテリーは日本のインタナショナル小学に入学しました。1989 年にテリーはアメリカンジュニアハイスクールに入学しました。(後略)

・よりわかりやすくするには

(前略) 1983 年にテリーは日本のインターナショナル小学校に入学しました。1989 年に、アメリカンジュニアハイスクールに入学しました。(後略)

・コメント

「テリーは」は明らかなので、省略したほうが、文がスッキリする。

(『日本語の作文技術 中・上級』(pp. 84-85))

り、省略の規則を具体的に述べていないため、文章の作成・推敲をするための十分な指標を与えているとはいえない。

(B) と判定したもう一冊の教材 11 では、「A. わかりやすい文章を書くために」という章の「同じ言葉を繰り返さない」の節の中で、分かりきった主語や目的語を省略する方法があると述べている。主語だけではなく、目的語にも言及している点は評価できるが、どのような条件において・どのように省略するかについての具体的な説明がないため、文章の作成・推敲において、十分な参考にはならないだろう。

教材 11

12. 同じ言葉を繰り返さない

(前略) 日本語の文章では同じ言葉を何回も使うのはあまりいいことではないとされている。「田中」という一人の女性が登場するとして、この人を示すのに、「田中さん」「田中女史」(中略)に至るまでじつに様々な呼び方ができる。

「私」がいつまでも「私」のままでは工夫がない。分かりきった主語や目的語をそっくり省略するのも立派な文章技術である。その他、代名詞や指示詞を効果的に使う手もある。人を表す言葉だけでなく、この原則はもっと広く適用される。それだけ工夫の余地が大きいのも日本語の特徴なのかもしれない。

(『日本語作文Ⅱ：中級後期から上級までの作文と論文作法』(p. 105))

一方、(C) に分類した教材 12 は、「文の長さを読みやすさ」の課において重複を取りあげ、さらに、重複を回避するための省略から一步進んだ「省略のしすぎ」についても言及

教材 12

●第 13 課 文の長さを読みやすさ

(「問題・解答」略)

1. 長い文は読みにくい

④ 同じ表現が何度も出てくる

「のどの病気にともなって起こったり気管支の病気にともなって起こったり」の部分は、「病気にともなって起こったり」が重複してくどい感じがするので、文をまとめて短くするといいでしょう。」

2. 短い文も読みにくい

② 述語が共通する文

例：生活のために昼間はスーパーで、夜は居酒屋で働いた。

生活のために昼間はスーパーで働いた。夜は居酒屋で働いた。△

●第 16 課 読み手への配慮

(「問題・解答」略)

2. 省略のしすぎ

(2) 「満員電車の中で誰かに足を踏まれた。ギャーという声を上げた。」

(2) は、主語の省略によるものです。省略しすぎると、文の意味がわかりにくくなるので、気をつけましょう。(2) は、「私は思わずギャーという声を上げた」のように、「私」であることを明確にすると、文の意味が理解しやすくなるでしょう。

(『留学生のためのここが大切 文章表現のルール』(pp. 98-101, 120))

している。本教材では、各課の冒頭に当該課で扱う項目に関するまとまった長さの文章問題が提示されている。これは学習者が文脈の中で重複を理解する助けとなるであろう。また、述語の重複について言及している点も評価できる。

3.3 上級・超級

上級に分類した 6 冊は、すべて重複・省略に関する記述がなかった。一方、超級に分類した教材 4 冊のうち、重複・省略に関する記述がない (A) は 3 冊、重複・省略に関する記述があって、文章を作成・推敲する際の指標となる (C) は 1 冊と判定した。

(C) と判定した教材 22 は、「結束性」の節の中で結束性を高める方策の一つが「省略」であるとし、その例として主語の省略を挙げ、例文をつけて説明を行っている。前述したように、初級において 1 冊ではあったものの主語の省略が取り上げられ、中級でも (B) (C) に分類した教材で主語の省略に関することが言及されている。本稿の冒頭で示した重複の例（「LCC の値段は一般航空会社に比べ、最大 50%の値段の差があるという。」）のように、日本語能力が上がるに従い、単純ではない重複も現れるようになると予測されるため、上級・超級においては、このような重複も取り上げる必要があると考え

教材 22

5. 「どのような流れで」(D: 構成・結束性)

結束性

「結束性」は、文と文やパラグラフとパラグラフがスムーズにつながっているかどうかを表すものです。結束性は、「接続表現」をうまく使ったり、「指示表現」を使ったり、「語彙の連関」として言い換えや反復を行うことによって高めることができます。(中略)

何度も同じ表現を繰り返さず、「指示表現」を使ったり、「省略」することによっても結束性を高めることができます。「指示表現」は「それらの」「このように」といった表現のことで、前に述べた語や文、内容そのものを指し示します。これらの表現を使わずに、何度も同じ表現を繰り返すとしつこくなり、日本語として不自然になります。一方、「省略」は繰り返さなくても分かる内容を省略することです。省略せずに同じ表現を繰り返すと、やはりしつこくなります。例えば、「日本の人口は、50 年前には約 9,000 万人であった。

(日本の人口は) 2010 年には 12,800 万人に増えると同時に、高齢化率が大幅に上昇した。

(日本の人口は) 2060 年には 9,000 万人に割り込み、高齢化率は 40%近くになると推計されている。」という文章で、「日本の人口は」が繰り返されると、ゴツンゴツンとした感じがしますね。(後略)

(『Good Writing へのパスポート：読み手と構成を意識した日本語ライティング』(pp. 17-18))

る。

重複は、形式面だけではなく、内容面で起こることもある。日本人の大学生を対象とした教材である『学生のレポート・論文作成トレーニング：スキルを学ぶ 21 のワーク 改訂版』では、内容面の重複について言及している。上級・超級レベルの学生を対象とした授業では、このような重複も取り上げることを検討する必要があるだろう。

4. まとめと今後の課題

以上、作文・レポートの教材を初級・中級・上級・超級に分け、重複・省略に関する記述内容から3つに分類し、その分析を行った。その結果、重複・省略に関する記述がある教材は全体の2割強で、あまり重視されていないことがうかがえた。また、記述がある教

調査対象外教材

● 3 正しく伝える

同じ内容の繰り返し

例：×インターンシップは就職のミスマッチをなくすために必要だ。なぜなら、職場を実際に体験することは、不適當な就職を減少させるために重要だからだ。

→「なぜなら」以降の文も、理由ではなく意見の繰り返しになっている

(『学生のレポート・論文作成トレーニング：スキルを学ぶ 21 のワーク 改訂版』(p. 59))

材においても、省略の具体的な方法について述べていないものが5冊中2冊を占めていた。一方、文章の作成・推敲の指標となると判定した教材は初級・中級・超級でそれぞれ1冊ずつ挙げられた。しかし、超級教材で取り上げられた重複の例は主語のみであり、このレベルの学習者にはその他の重複も示すべきではないかと考えた。さらに、内容面における重複の取り扱いを検討する必要性を指摘した。

最後に、今後の課題について述べる。作文・レポートにおける重複・省略の段階的指導を行うため、まず、各レベルの学生が書いた作文・レポートを対象として、どのような繰り返しが日本語母語話者に「重複」と判定されるのかを調査し、そこで得られた結果をもとに、それらをどのレベルで扱えばいいのかを検討する必要があるだろう。また、上級・超級の学生を対象とした指導を充実させるため、日本人の大学生を主な対象としたレポート・論文の教材における重複・省略の扱いの調査を進めたい。そもそも、日本語母語話者が重複と判定する繰り返しを、日本語学習者は反対に必要だと判断している可能性も考えられる⁽³⁾。よって、日本語母語話者と日本語学習者を判定者とする重複の調査を行い、両者の判定の間にどのような差異があるのかも調査していきたい。

(内藤真理子ないとうまりこ・関西学院大学・naito.mrk@gmail.com)

注

1. ただし、大塚(1995)の論文での調査対象は作文ではなく、発話である。
2. ここで示した重複の定義は、大阪大学日本語日本文化教育センターの小森万里氏との共同研究において決定したものである。
3. 石黒(2007)は「省略が少なく冗長」であっても、ベタに書きこまれているからこそ、誤解なく論理をきちんと追って理解できるということになり、留学生の意見として、日本語学習者にとってはそのほうがかえってわかりやすいこともあるとしている(p. 57)。

参考文献

石黒圭(2007)『よくわかる文章表現の技術V 文体編』明治書院

大塚純子(1995)「談話主題省略と冗長さの減少について：中上級日本語学習者の場合」

『国文』お茶の水女子大学国語国文学会，第 83 号，22-33.

日本語教材リスト編集委員会(編集)(2015)『日本語教材リスト No. 44』凡人社
凡人社ウェブサイト <http://www.bonjinsha.com/> (参照日：2016. 2. 8)

分析対象教材

- アカデミック・ジャパニーズ研究会 (2015)『改訂版 大学・大学院 留学生の日本語②
作文編』アルク
- アカデミック・ジャパニーズ研究会 (2015)『改訂版 大学・大学院 留学生の日本語④
論文作成編』アルク
- 石黒圭・筒井千絵 (2009)『留学生のためのここが大切 文章表現のルール』スリーエー
ネットワーク
- 稲垣滋子 (1986)『日本語の書きかたハンドブック』くろしお出版
- 門脇薫・西馬薫 (2014)『みんなの日本語初級 やさしい作文』スリーエーネットワーク
- 鎌田美千子・仁科浩美 (2014)『上級日本語学習者対象 アカデミック・ライティングの
ためのパラフレーズ演習』スリーエーネットワーク
- 倉八順子 (1997)『日本語の表現技術：読解と作文 上級』古今書院
- 倉八順子 (2000)『日本語の作文技術 中・上級』古今書院
- 倉八順子 (2012)『日本語の作文力練習帳 上級：大学・大学院で学ぶために』古今書院
- 倉八順子 (2015)『日本語の論文力練習帳』古今書院
- 桑田てるみ (編) (2015)『学生のレポート・論文作成トレーニング：スキルを学ぶ (21
のワーク 改訂版』実教出版
- 佐々木瑞江・細井和代・藤尾喜代子 (2006)『大学で学ぶための日本語ライティング』
ジャパントイムズ
- 佐藤政光・戸村佳代・田中幸子・池上摩希子 (2002)『表現テーマ別 にほんご作文の
方法 (改訂版)』第三書房
- 澤田幸子・武田みゆき・福家枝里・三輪香織 (2015)『日本語 読み書きのたね』スリー
エーネットワーク
- C&P 日本語教育編 (1988)『日本語作文 I：身近なトピックによる表現練習』専門教育出
版
- C&P 日本語教育編 (1988)『日本語作文 II：中級後期から上級までの作文と論文作法』専
門教育出版
- C&P 日本語教育編 (1989)『絵入り日本語作文入門：文型による短文作成からトピック別
表現練習へ』専門教育出版
- 田中真理・阿部新 (2014)『Good Writing へのパスポート：読み手と構成を意識した日
本語ライティング』くろしお出版
- 東京外国語大学留学生日本語教育センター (編著) (1999)『初級日本語 作文練習帳』
凡人社
- 友松悦子 (2008)『中級日本語学習者対象 小論文への 1 2 のステップスリーエーネット
ワーク
- 二通信子・大島弥生・佐藤勢紀子・因京子・山本富美子 (2009)『留学生と日本人学生

- のためのレポート・論文表現ハンドブック』東京大学出版会
- 二通信子・佐藤不二子（2003）『改訂版 留学生のための論理的な文章の書き方』ス
リーエーネットワーク
- 浜田麻里・平尾得子・由井紀久子（1998）『大学生と留学生のための論文ワークブッ
ク』くろしお出版